平成 29 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画(PLAN)

事務事業名	観光イベント事業	会計名称					一角	役会計		担当課		} 課		
尹衍尹未石	観儿/1、マルサ未	予算科目	7	款	1 項	4	目	事業番号	3200	所属長名		大名	基文	
事業評価の有無	■ 評価対象事業 □ 評価対象外事業(事業の概要・結果のみ)											窪日	∃春樹	
法令根拠等	伊予市観光協会事業費補助金交付要綱									【開始】	平成	18	年度	
総合計画での	産業振興都市の創造									実 施 期 間	【終了】	平成		年度(予定)
位置付け	賑わいのある観光の振興										【本会】】			設定なし
総合計画における 本事業の役割	画における 業の役割 魅力あるイベントや情報発信により、観光客誘致を推進する。													
事業の対象	伊予市観光協会							観光産業として ントや情報発信		忍識しながら、観光	施設や観光	光資源を 注	舌用し	た各種イベ
事業の内容 (整備内容)	観光協会や市民、関係機関との連携を強化して、観光客のニーズにあったソフト面とハード面を一体化させた事業の展開行う。						に な 意	観光協会が各種 意識改革を推進	重イベントの迫 生する。	軍営に対して主体的	に取り組ん	Jでいけ.	るよう	、組織内の

事業活動の内容・成果 (DO)

7.7	711 300	の内容	1507	(00)																						
		事	業			び	***	源			千 円					事 業		動の			(活 動	指標			
	項		E		前年度決算	当	初予算額	補」	E予算額	継続費その他	翌年度	繰越	決算額		項	目		単位	28	年度実績	29	年度予定	9月末の	実績	29 4	年度実績
直	接	事	業	費	22, 103	3	21, 813	3	0	(0	0	21, 76	6												
	国	庫。	支 出	金			(0	0	(0	0		0 イベ	ドントの閉	昇催回数		口		10		10		9		10
財源	県	支	出	金			(0	0	(0	0		0												
内	地	1 7	5	債			(0	0	(O	0		0												
訳	そ	- 0	0	他			(0	0	()	0		0 本庁	地域入记	込み客数		人		46200		42000	5	1200		51200
	_	- 般	財	源	22, 103	3	21, 813	3	0	()	0	21, 76	6											1	
職	員の人	こと	こんく)数	1. 19	9	1. 10	0					0.9	0												ļ
1人	エ当だ	たりの.	人件書	単価	8, 086	3	8, 017	7					8, 01	7 中山	地域入道	込み客数		人		9000		9000	1.	5500		15500
×	直接	接事業費	人十隻	.件費	31, 725	5	30, 632	2					28, 98	1												
	主	な実施	主体		直接実施、伊	→市	観光協会	実施理料	i形態(補 ↓・委託料	助金・指定管 等の記載欄)	補助金				F地域入;	込み客数		人		5100		5000		1800		12200
					向こう5年間	の古も	 	の批技				30	年度	31	年度		32 年	度	33	年度		34 年	度	5年間	間の合	計
					同こり5年間	(千円	(安安未复)])	のプチェイタ					22,000		22, 00	0	25	2, 000		22, 000		22,	000			110, 000
											È	単位		区分	作度	28	白	度	29	年度	3	80 年	度目	標	毎	年度
		- 1	指 標	Ę	市内イベント	入込	み客数					人	_	目	標		55500		560	000		57000		58	8000	
万 与 才	Ħ	指標設	定の	考え方	年間イベント 増だけでなく	・を伊 年間	予市内各 通じて来	地で実 訪者の	ミ施するこ)あるオー	.とによって、 ·ルシーズン化	リピータ を目指す	ー の。		実	績		66150		789	900						
		指標で	で表せ 効果	ない																						

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の 改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)
--

イベント実施に向けた打ち合わせ会において、自発的な思考をもって会議に臨むよう前打ち合わせを行うが、事業の円滑な推進のみに主眼が置かれ、なかなか意識の改革に至らないでいる。

	定対する対		いでいる。		0.7	1311 3114 6611	<i>y n</i> (1.2k	1 1111 0	THE STATE OF THE S
事	自		目的の妥当性	5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 4 横れ、施策の目的に沿った事業である。 2 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が		事業	観光協会の職員大勢が整ったことで、イベント運営業務 においては、市のサポートを受けながらも、主体的なポ ジションを保って運営員会等を主宰するなどして、実施
	己	妥当性	社会情勢等への対応	5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 4 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 2 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4	14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B	A	成 果	に漕ぎ着けることができた。
	判		市の関与の妥当性	5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 3 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	3	5∼ 7 : C 3∼ 4 : D		I	
務	定(事業の効果	1 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 4 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	5	合計点が		夫し	
	担	有効性	成果向上の可能性	1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 5 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 4 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	3	14~15 : S 10~13 : A 8~ 9 : B	A	た点点	W 日 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	当		施策への貢献度	1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 5 施策推進への貢献は多大である。 4 施策推進に向け、効果を認めることができる。	3	5~ 7 : C 3~ 4 : D		事業の	職員体制を整えて2年目の取り組みであったことから、 市との連携の在り方等については、一方的な受託となら ないよう、適度な距離感をもって円滑に移行するのに、 しばらくの時間を要した。
事	責		手段の最適性	1 施策推進につながっていない。 5 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 4 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 2	3	合計点が		苦労し	イベント運営にあたり、準備・片付けを含む人員の確保が課題であることから、引き続き観光協会に指導が必要と考える。
	任者	効率性	コスト効率	1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 5 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 4 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	3	14~15 : S 10~13 : A	В	した点	こつんら
	V		市民(受益者)負担 の適正	1 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 4 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。	3	8~ 9: B 5~ 7: C 3~ 4: D		課題	
業			目的の妥当性	1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 4 概ね、施策の目的に沿った事業である。	4	合計点が		事	■ 事業継続と判断する。
	_	妥当性	社会情勢等への対応	- この事業では施策の目的を果たすことができない。 - 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 - 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	3	14~15 : S 10~13 : A	A	業	□ 事業縮小と判断する□ 事業廃止と判断する
_	次		市の関与の妥当性	1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 4 3 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	3	8∼ 9 : B 5∼ 7 : C 3∼ 4 : D		の +	(判断の理由) 地域の特性を生かしたイベントの開催により、都市と
Ø	判		事業の効果	2 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 5 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 4 3 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	3	A=1 F 18		方向	の交流を促進するとともに伊予市の魅力を情報発信する ため、事業の継続が必要と判断する。
	定	有効性	成果向上の可能性	2 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 5 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 4 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	3	合計点が 14~15:S 10~13:A	В	性	
評	所	1 WIT	施策への貢献度	2 7 (x) (水深の)ロエル min C C 、 年来継続の必要性は低い。 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 2 施策推進への貢献は多大である。 3 施策推進に向け、効果を認めることができる。	3	8~ 9 : B 5~ 7 : C 3~ 4 : D	<i>D</i>	所属	各種イベントの運営については、観光協会が主体的に 運営していけるよう指導するとともに、実行委員会等の 運営組織の意識改革を促し、イベント内容及び事業費補
	属			7 1 施策推進につながっていない。 5 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。				長	助金の見直しも検討する必要がある。
	長		手段の最適性	3 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 2 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 5 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	3	合計点が 14~15:S		の課	
価)	効率性	コスト効率	3 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 2 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。	3	10~13 : A 8~ 9 : B 5~ 7 : C	В	題認	
			市民(受益者)負担 の適正	4 計画 と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 7 地事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。	3	3∼ 4 : D		識	

		一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	
1./			
施			比拉吉克力队十二 吉双万荣 吉娄州光
策	=	□ 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進 に努め、今年度の事務事業評価シートに 反映させること。
を		一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
踏	次	見直しについて調整を進めている。更なる協議を行い運営方針、意思疎通を図りたい。 ■	
ま			
え	判	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
<i>t</i> =			
	_		
判	定	□ 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
断		□ 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		□ 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	
行	外	答申の内容	
政 評			
価委員	部		
員会	評		
の	ā T		
答申	価		
今後の方	向性 (ACTION)	**** a -tt11	
		事業の方向性 コメント欄 □ さらに重点化する。 二次判定の内容を踏まえ見直すこと。	
	の経	□ 現状のまま継続する。	
	最営 終者	古記の点を見直しの上、継続する。	
	判会 断議	事業の縮小を行う。	
		事業の休止、廃止を行う。	